

# 民俗博物館だより

Vol. X No. 4

1984. 3. 25



山の神まつり (山添村春日)

## 目 次

都市公園と民俗博物館の今後の課題……………	1
大和のカンジョウカケの神事(大和の民俗行事③)……………	3
昭和58年度博物館事業報告……………	5
寄贈民俗資料分類目録……………	8
図書寄贈者目録……………	13
お知らせ・他……………	15

# 都市公園と民俗博物館の今後の課題

奥田 猛

— 緑豊かな公園にある博物館 —

## はじめに

京都・大阪・奈良は、近年三府県による「京阪奈学園都市構想」で脚光を浴びて来た。この三府県は、近畿の中でも貴重な文化遺産を有する宝庫とも云われ、特にわが奈良県は、日本古代文化の発祥の地として知られ、数多くの文化財を残し保存されている。

然し、昭和40年代に入ると日本列島改造論が云々され、大阪のベットタウンとしての地理的な関係から開発が急激に進み、民俗資料がこのまゝでは、散逸するとの判断から奥田良三前知事の提唱により、当民俗博物館が建設された経緯については、すでに周知のことと思われる。

昭和59年11月には、開館されて満10才を迎えるが、これを一つの節目として、過去の歩みの跡を顧みるのも意義あることと考える。

## 1. 民俗博物館について

地理的には、近世の城下町として発達した大和郡山市の北西部（矢田町）に位置し、敷地は矢田自然公園の丘陵を背景に、面積約20万平方メートルの広大な大和民俗公園内に建設されている。

特に博物館活動の中核となる民俗資料の収集、保存、調査研究、展示等は学芸員の箇々の活動或いは、チームとしての機能発揮に期待するところが大きい。

展示には、常設展示と企画テーマ展示があるが、常設展示こそ博物館の使命の主流であ

ると考え「大和の生業展」では、稲作コーナー、大和のお茶コーナー、山の仕事コーナー、生業を支えた職人コーナー（鍛冶屋、櫛木屋）を設けている。

また、年2回のテーマ展や秋の特別テーマ展などの事業、そして展示と併行して体験学習講座や民俗カルチャー講座（民俗コース、民家コース）を開催し、地元奈良県内はもとより、大阪、京都の他府県の受講者も多く、講座内容により部屋の関係上止むを得ず定員を決めているが、定員をオーバーする場合は多く嬉しい悲鳴をあげている。

当館の展示は、他館にみられない手法を用いている。例えば、稲作コーナーでは、結論即ち収穫から逆に稲の粃播き（苗代）、整地へと展開していつている。また、展示台にしても各コーナー毎に色わけし、寸法も移動或いは展示替えに便利のように、90センチメートル角にしている。

解説は、わかり易く、楽しく観られるように小学校4・5年生が理解出来るよう配慮しているが、反面平易すぎると云うそしりは、まぬがれないかも知れない。

一方展示、講座等とともに館として重要な資料収集も、第一次、第二次収集とその後の収集で、約14,000点収集したが未だ充分とは云えず、納屋や土蔵に眠る民俗文化財の収集に努めているところである。幸い県民の皆様方の御理解と協力により情報提供者も増え、学芸員がその対応に忙殺されているような状況である。加えて、館への収集持込みは終わったもののその後の分類、整理に手間どっているのが実情である。

幸い昭和58年度に、かねて欠員中であった学芸員が1名補充されて、5名になったとは云え、収集した民俗文化財の整理と保存、特に収蔵庫のスペースの問題もあって、意の如くはかどっていない。収蔵庫については、暫定措置として、庫内の空間を利用すべく鉄製の棚を年次計画的に購入し、逐次整備しているのが現況である。



▲大和民俗公園と民家 —

## 2. 大和民俗公園について

当初、昭和48年、県単独事業として着手し、昭和50年12月に都市公園としての都市計画決定及び建設省の事業認可を受け、目下継続工事中である。

計画面積については、前述のとおり20haであって、用地は地元大和郡山市（大和郡山市土地開発公社）の協力を得て約90%の買収を了したところである。

また、施設、植栽等工事施行の面から見ると金額的には、約75%位消化したことになるが、全体計画を樹てた時点と現時点では、自ら物価上昇等の単価アップがあるので、率からだけで判断するには危険性があり妥当ではないと考えている。

緑あふれる環境のよいところに立地しているこの公園には、やがて消え去って行くであろう県下の代表的形式を残した古民家を移築復原し、所謂「屋外博物館」的な構想から「民家のある民俗公園」として、「町家集落」「国中集落」「宇陀・東山集落」そして吉野の桜や吉野杉で名高い「吉野集落」の4ブロックに分かれ、全体として15戸の移築復原を計画している。現在、復原し一般に公開しているのは、町家で2戸、国中で2戸、宇陀東山で1戸、吉野で1戸、何れも国の重要文化財或いは、県の文化財指定を受けた大和の民家であり、民家の歴史、変遷を知るうえで貴重なものばかりである。

このように、「空間のある」そして「ゆとりのある博物館配置」或いは、大和民俗公園構想は、最近斯界でも論議の的となっており奈良県の誇り得る施設である。

## 3. 今後の課題



▲館内収蔵庫の資料収納状況

民俗博物館と大和民俗公園を中心に今日までの歩みをふり返ってみて来たが、然らば今後どうあるべきか。どう対応するのが望ましいのか。大命題を論ずるには、いさゝか厚顔すぎるが、思いつくまゝに次に記し、皆様方の御叱正をたまわりたい。

### (1) 郷土学習室の充実

単にものを並べものを観るだけでは、最近の住民のニーズに答えられないのではなかろうか。即ち視聴覚コーナーの設置である。大阪の国立民族学博物館は例外としても、近くでは神戸市立博物館或いは岐阜のリトルワールド等でみられる映像活用、テープ、ビデオデスク等観る者の要求に合せ、展示を補完するため早期に実現したいものの一つである。

### (2) 県の中核としての民俗博物館

こゝ近年、全国的な傾向として、歴史資料館、民俗歴史資料館等が市町村単位に設立される機運にある。当民俗博物館は、県下のこれら博物館の相談相手となり、助言、協力出来る館として、機能的にも充実を図りたい。

### (3) 専任解説員の展示場への常駐

このことについては、大和民俗公園建設審議会民俗専門部会の委員の先生方から再三御指摘のあるところであるが、現人員ではとても余裕がなく、特に申し出のあった小学校等の団体に随時対応しているところである。

本来は、展示場に解説員を常駐させることが望ましいのでは、なかろうか。また、逐次全国的にもその傾向にあると承っている。

### (4) 触察コーナー

すでに、(1)で述べた視聴覚コーナーの設置と関連して、物に触れるコーナー（これは観覧者が、物を自由に触れる）も併せ配慮したいものである。

### 結 び

博物館は、社会教育特に最近やかましく云われている「生涯教育特に博物館は、どうあるべきか」を肝に銘じ、みせるだけの博物館でなく、みて、さわって、学ぶ博物館へ脱皮したい。さらに、忘れ去られようとしている傳承技術、芸能等所謂無形文化財の記録・収録、保存にも充分配慮していく必要があると考えられる。

(館長)

## 大和のカンジョウカケの神事

奥野義雄

—カンジョウカケの紹介とその村落内での受容期の課題によせて—

大和のカンジョウカケは、ツナカケともいわれ、年頭の行事として知られている。現在カンジョウカケを行なっている村落＝ムラは数少なくなってきたが、平群町<sup>ひではら</sup>檮原や明日香村<sup>あすか</sup>稲淵・<sup>いなぶち</sup>栢森や桜井市小夫や<sup>わかい</sup>榛原町額井はムラの行事として受け継がれている。

とくに、平群町檮原のカンジョウカケは、村内の金勝寺で行なわれる。村人（男）が各戸から藁を持ちよって、オンズナとメンズナをつくり、仕上るとこの綱で綱引きをし、正月8日に村内を流れる平群川に掛け渡して、カンジョウカケの行事が終る。この綱には男根が付けられるのである。

また、明日香村稲淵と栢森の二つのムラでも、この両村が協業してカンジョウカケを行なう。村人（男）によって綱が編まれて、村のはずれに綱を掛けるが、ここでも綱に男根が付けられる。

このようにカンジョウカケの行事は、ムラごとに若干相異し、各々が特色あるカンジョウカケ（ツナカケ）であるが、このような名称をもたないが、桜井市江包と大西の両村協業で行なわれているオツナ祭りも、一種のカンジョウカケであろう。このオツナ祭りを次に紹介することにしよう。

\* \*

この桜井市江包と大西のオツナ祭りは、いくつかの伝承をもつが、いずれもが素戔鳴尊と稲田姫にまつわるものであり、五穀豊穡を



▲桜井市小夫のカンジョウカケ

願ったものであることは大過ないところである。

このオツナ祭りは、毎年2月8日から10日まで営まれてきたが、今日では同月9日から11日に変更されて神事が行なわれている。

2月9日には、江包でオツナがつけられ、大西でメヅナがつけられる。各戸から一人が参加して藁1把を持ちよってくる。

江包では、オツナが村内の春日神社の境内で行なわれる。今日の藁は機械刈りのためにオツナはやや小さくなってきたという。まず藁5把でオツナの芯をつくり、藁20把をこの芯に巻き込んでいく（ネドコと呼ぶ）。このネドコは三段に少しずつ、づらして置いて、このような芯づくりが5回繰り返される。3回目のネドコは五段に、4回目のネドコは七段に、そして5回目のネドコは八段にして巻き込んでいきオツナがつけられていく。

出来上がったオツナは直径140cm程で、長さ350cm程の大きさで、円錐形のオツナの先端には綱を繋いでいくのである。オツナが出来上がると古拝殿に納めておく。江包では「一夜お泊めする」という。このオツナを大西の人（区長）が挨拶がわりに見にくる。

一方、大西では、村内の市杵島神社の堂内で、メヅナの胴体になる3つの足が長く編まれていくが、この3つの足がいっしょに三つ編みにされて、オツナの直径よりやや大きめになったところで編み終わる。三つ編みにした後、輪をつくり、女陰をかたちづくる。この本体やこの本体を巻くマキヅナや尾が出来上がると、堂外つまり境内に出して、本体に毛をつけて、さらに本体の輪の部分を二つ折りにして、マキヅナで巻いていくと作業が終る。その後再び堂内に納めるが、頭の部分をその年の《アキの方向》に向けて、大西のメヅナづくりも終了する。

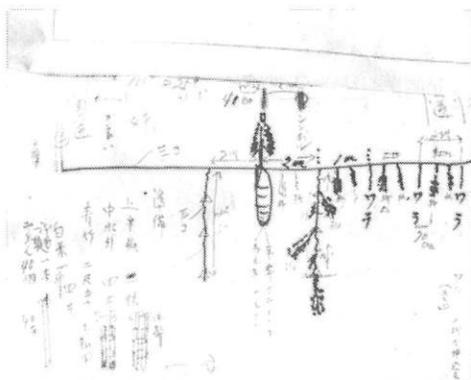
2月11日の神事最後の日は、江包では神社の古拝殿からオツナを出し、神社の近くの広い場所でオツナを成人させてから溜池の淵まで20人程でかついでいき、そこで手じめ

を行なう。そのとき「シャン シャン もひ  
とつせ いおうて さんどの オツシャカシ  
ャン」と掛け声をかけ、その後村の目出たい  
事のあった家を廻わり、神社へ戻るのである。  
そして、神社へ戻ってから、暫く綱の上で村  
人がふざけ、その後神社を出て田へ行く（樋  
上さんのたんぼと呼ばれている）。この田でオ  
ツナをそばに置いて、泥相撲を行なう。この  
泥相撲が終ると村人だけいったん神社へ戻る  
のである。この間、大西では、江包の初瀬川  
沿の素戔鳴神社に行き、先にメヅナを古木に  
掛ける作業を行なうと共に、この間に大西の  
仲人さん（喜田家が代々行ない世襲制を保持  
している）が江包の樋上さんのたんぼへ呼び  
つかえに来る。かつては《七回半の呼びつか  
え》と言いつたえられているが、今日では形式  
化している。仲人の呼びつかいで、江包のオ  
ツナが素戔鳴神社へ進んでいく。到着したオ  
ツナは、メヅナの反対側（東側）の古木に掛  
けて、すでに吊り掛けられているメヅナと結  
びつけるのである。このメヅナとオツナをし  
っかり結びつけてから、神社の正面に結合し  
たオツナとメヅナがくるように吊り上げてい  
くのである。

掛け終わると江包と大西の両村の村人が手  
打ちを行ない、その後神主のノリト（祝詞）  
を神前で唱えて神事が終わるのである。

この神社境内およびそれに隣接する地を、  
江包の村人は「カンジョ」（勸請）と呼んでい  
ることからも、「カンジョウカケ」と関連する  
であろうと考えられる。

このように、桜井市江包と大西の両村協業  
のオツナ（御綱）祭りは、毎年五穀豊稔の祈  
願を内蔵させて行なわれている。



▲明日香村福淵・柏森のカンジョウカケの図

\* \* \*  
カンジョウカケ（ツナカケ）の行事やその  
伝承によって、カンジョウカケを知ることが  
できる一方、各地にカンジョウカケが行なわ  
れていたことを次の史料（地方文書）からも  
カンジョウカケが存在したことを知る。

たとえば、「福住村文禄検地帳」（年未詳）の  
「かわら、かんじゃう（かんしゃう）神主下  
北うら坂」という記載——前・後部欠落によ  
って明らかでないが、字名を書き込んだもの  
と思われる——によって、「かんじゃう」（勸請）  
の存在したことを知る（傍点—奥野）。そして、  
「上ノ庄文禄検地帳」にみえる。

上 壱反四畝十四歩 弐石壱斗七升 藤四  
郎（中 略）

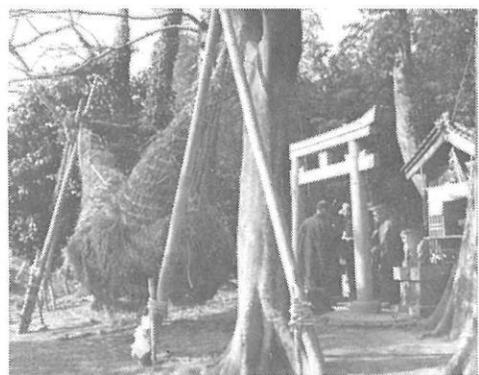
中 四畝廿四歩 六斗二升三合 弥二郎  
という記述がそれで、「かん上」は「勸請」を  
表わすものであろう（傍点—奥野）。

この文書によって、福住や上ノ庄のムラで  
は勸請田（勸請の行事を行うべき費用を捻出  
する田）があったことを知る。

この史料をみる限り、各地に勸請田があり  
すでに文禄検地が行なわれていた時期に存在  
していたことを示唆するものといえよう。

しかしながら、この「検地帳」にみる「か  
んじゃう（かんしゃう）」「かん上」が現実に  
「勸請」、かつ《カンジョウカケ》の神事に繋  
っていくものか、否かという実証的な検討が  
必要であり、一つの課題として提起すること  
として、ここではカンジョウカケの神事の紹  
介にとどめておくことにしたい。

（1984. 2. 24 了）



▲桜井市江包・大西のオツナ祭り

# 昭和58年度博物館事業報告

稲葉 安正

近年にない雪の多いかつ寒い冬将軍も二月堂のお水取りが終るとともに着実に「春」がそこまで来た事を肌で感じさせてくれる今日この頃です。

時あたかも59年度は当奈良県で第39回国民体育大会が開催される年でもあり、また本年11月で当館が開館して満10才になる意義深い年でもある。したがって従来のこの歩みを一つの節として来るべき11年目を「温故知新」とする新たなキャラクターとしての伸展を願うものである。

曰く、有形、無形の芸能伝承資料の収集、並びに県内の民俗資料の中核的情報センターとしてetc……である。

ひるがえって本年度は展示においては、吉野の山村生産用具一式1,226点が奈良県文化財として指定され、これを記念して「吉野の山村生産用具展」を開催し、吉野の林業を支えた人々の歴史を知るためにはこの展示をみのがすわけにはいかなかったであろう。

また特別テーマ展として、修験道のメッカとしての大峰山寺が約300年振りに大修理がおこなわれることになり、これを含めてこの機会に県の吉野・大峰山を中心とした「山の信仰と吉野修験、の実態を山と人とのふれ合いから考察することにした。

また、テーマ展「暦と時」は「時」を発見し、時計をつくり改良し、人々の中へ溶け込んでいった時の思惟や「暦」がどの様にして人々の生活の中に定着していったかを見る。

動く展示としての三面マルチオートスライドの第3作目として「はたおり一女の仕事を製作公開し、今も県内に残る織りものの伝承技術をとおして昔のくらしの一端を見ることにした。

相変わらず人気のある体験学習は今年は移築復原した民家を使つての御供餅づくり・竹かごづくり・シメナワづくり・原始機を使つてのはたおり等、毎回申込者が多くいづれも抽せんをするという盛況の内に体験学習を終えた。

また、民俗カルチャー講座においては、民俗学を中心に、ときには考古学、民俗学、そして歴史学の領域も含めた学習テーマで、毎回講義を開催し、民俗学の一端を繙いてもらった。そして回を重ねる度に熱心なファンが着実に増えつつある。

目を公園内民家の方へ向けて見ると昭和55年度からの懸案であった八重川家の解体移転が本年度認められ、解体して無事当博物館に収納した。旧八重川家は山間部における地域の特徴を持った住宅で小規模ではあるが建物の時代的変遷を知り得る上で重要である。建築年代は19世紀前半2間取りの庶民的な農家住宅である。

次に十津川地方の代表的な民家としての旧木村家住宅の復原とあい俟って一般公開をおこない、これに伴って公園内に移築復原された民家寄贈者・御指導いただいた方々をお招きして旧木村家に設えた囲炉裏で「囲炉裏開き」をおこなった。

一方公園敷地については、本年度の公園用地の買収面積5,559㎡を加え、全公園敷地の90%の買収を了した。

次に公園の整備計画においては、本年度は園路、広場の整備と、修景施設等の工事をおこない公園としての体裁を整え、県民の快適な憩いの場としての環境を着々と備えつつあるといえよう。

以上、昭和58年度事業の主なるものを拾い上げたが、詳細は次の通りである。

## ◀博物館事業▶

### ❖展示

昭和58年4月7日から9月11日まで

テーマ展「県指定文化財記念吉野の山村生産用具」

昭和58年9月23日から11月11日まで

特別テーマ展「山の信仰と吉野修験」

昭和58年11月23日から3月28日まで

テーマ展「暦と時」

### ❖速報展

昭和58年4月7日から7月10日まで

民俗文化財速報展「大絵馬」  
 昭和58年7月12日から11月22日まで  
 民俗文化財速報展「はたおりの準備」  
 昭和58年11月23日から昭和59年4月7日まで  
 民俗文化財速報展「桶とその製作用具」

❖移動展

昭和58年4月8日から4月19日まで  
 移動展「テーマ展・吉野の山村生産用具」  
 展紹介（南都銀行本店）

昭和58年7月9日から8月6日まで  
 移動展「大和餅」（南都銀行郡山支店）

昭和58年8月30日から9月6日まで  
 移動展「特別テーマ展・山の信仰と吉野  
 修験」紹介（南都銀行本店）

昭和59年2月14日から2月24日まで  
 移動展「テーマ展・暦と時」紹介（南都銀行  
 本店）

❖民俗カルチャー講座

民俗コースⅠ 昭和58年6月～7月（4回）

- ⑤ 編みと織りの文化を掘る 小笠原好彦氏
- ⑨ 絵巻物にみる着物 蔭山宏子氏
- ⑬ 庶民と着物の接点 片岡五月氏
- ⑰ 晴れと褌の着物文化を織る 片山陽次郎氏



▲囲炉裏開き



▲体験学習講座（御供餅づくり）

民俗コースⅡ 昭和58年10月～11月（4回）

- ⑥ 山の神まつり 原泰根氏
- ⑩ 水神に祈る踊一雨乞習俗として—  
高谷重夫氏
- ⑭ 野神まつり 田中義広氏
- ⑱ 田の神への誘い—御田植神事から—  
林 宏氏

民家コース 昭和59年2月～3月（3回）

- ⑲ 寺内町の民家 松本修自氏
- ⑳ 街道筋の民家 上野邦一氏
- ㉓ 城下町の民家 亀井伸雄氏

❖体験学習講座

- 58 5月22日 御供餅づくり（定員60名）
- 7月30日～31日 竹カゴづくり（定員40名）
- 9月25日 ワラカゴづくり（定員60名）
- 11月27日 シメナワづくり（定員80名）
- 59 1月21日～22日 特集・はたおり教室（定員40名）

❖民俗資料燻蒸

昭和59年3月25日から27日まで

❖印刷物

博物館研究紀要 第8号  
 博物館だより Vol.XNo.1～Vol.XNo.4  
 特別テーマ展図録「山の信仰と吉野修験」  
 旧鹿沼家住宅調査報告書

◀広報活動▶

❖テレビ・ラジオ

- 58 4/8 テーマ展「吉野の山村生産用具」紹介（奈良テレビ・県政ウィークリー）
- 5/2 民俗博物館・民家紹介（NHK奈良放送局, 640）
- 5/27 体験学習講座紹介（奈良テレビ・県政ウィークリー）
- 6/23 民家紹介（NHK奈良放送局, 646）
- 9/23 特別テーマ展「山の信仰と吉野修験」紹介（NHK奈良放送局, 640）
- 10/2 体験学習講座「はたおり教室」紹介（奈良テレビ・県政ウィークリー）
- 10/30 テーマ展「暦と時」紹介（奈良テレビ・県政ウィークリー）
- 3/9 民俗カルチャー講座（民家コース）紹介（奈良テレビ・県政ウィークリー）

◀日記抄・博物館実習▶

- 58 6/6 竜谷大学博物館実習（見学）



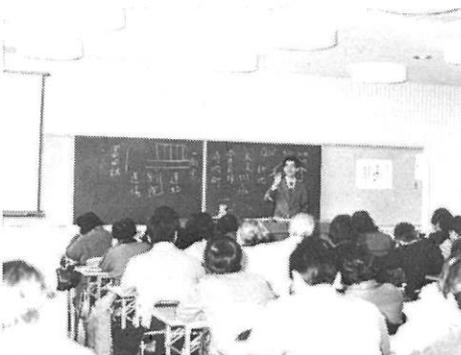
▲移動展（テーマ展紹介）



▲民俗カルチャー講座（民俗コースⅠ）



▲同上（民俗コースⅡ）



▲同上（民家コース）

- 7/27～7/31 橘女子大学博物館実習
- 7/27～8/6 駒沢大学博物館実習
- 8/24 仏教大学博物館実習（見学）
- 8/26 仏教大学博物館実習（見学）
- 8/27～9/1 花園大学博物館実習
- 9/25 大阪芸術大学博物館実習（見学）
- 59/12/4 奈良大学博物館実習（見学）

◀管理・運営▶

館長 奥田 猛	施設係・技師 嶋田神夫
次長 稲葉安正	学芸係長 奥野義雄
総務係長 西岡利男	総括学芸員 学芸主事 大宮守人
主査 金春智子	浦西 勉
主事 政 務	主任学芸員 徳田陽子
事務職員 家城貴子	学芸主事 横山浩子
建造物係長 主査 長谷川晋平	

❖人事異動

〈転入〉 58 4 月 1 日付・主事 金春智子、学芸主事 横山浩子 58 7 月 1 日付・技師 嶋田神夫 主事 政 務

〈転出〉 58 4 月 1 日付・主事 和田泰子、58 7 月 1 日付・主査 田中幸男、技師 倉窪孝

❖民俗専門部会

池田源太（奈良教育大学名誉教授）、堀井甚一郎（奈良教育大学名誉教授）、平山敏治郎（成城大学教授）、岸田定雄（近畿民俗学会代表理事）、林 宏（八代学院大学教授）

❖民家専門部会

杉山信三（京都市埋蔵文化財研究所長）、岡田英男（奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長）、吉田靖（奈良国立文化財研究所建造物研究室長）、青山賢信（大阪工業大学教授）

（次長）

# 寄贈民俗資料分類目録

(昭和58年3月から  
昭和59年2月まで)

昭和58年3月より昭和59年2月に至る間、17名の方々から249点に及ぶ民俗資料をご寄贈いただきました。ご芳名を記して、厚くお礼申し上げます。なおこの他、寄贈されました民俗資料の整理調査途上のものは掲載しておりませんので御容赦たまわりたい。年々県民の方々からご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます(順不同、敬称略)。

分類番号	調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
■ 衣・食・住					
(A) 服飾					
A-A	2472	ハッピ	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫
	2499	ハンテン	1	〃	〃
	2503	ハンチャ	1	〃	〃
	2518	ハンテン	1	〃	〃
	2526	〃	1	〃	〃
	2533	〃	1	〃	〃
	2459	着物 (単)	1	〃	〃
	2460	〃 (単)	1	〃	〃
	2461	〃 (袷)	1	〃	〃
	2462	〃 (袷)	1	〃	〃
	2463	〃 (単)	1	〃	〃
	2465	羽織	1	〃	〃
	2466	ナガジュバン (単)	1	〃	〃
	2467	羽織 (単)	1	〃	〃
	2468	〃	1	〃	〃
	2469	〃	1	〃	〃
	2470	〃	1	〃	〃
	2473	着物	1	〃	〃
	2474	〃 (単)	1	〃	〃
	2477	〃	1	〃	〃
	2478	〃	1	〃	〃
	2479	〃 (単)	1	〃	〃
	2480	羽織 (単)	1	〃	〃
	2481	綿入	1	〃	〃
	2482	羽織 (袷)	1	〃	〃
	2483	着物 (単)	1	〃	〃
	2484	〃 (袷)	1	〃	〃
	2485	〃 (袷)	1	〃	〃
	2486	〃 (袷)	1	〃	〃
	2487	〃	1	〃	〃
	2489	〃 (袷)	1	〃	〃
	2491	〃 (袷)	1	〃	〃
	2490	羽織 (袷)	1	〃	〃
	2492	着物 (袷)	1	〃	〃
	2494	羽織 (袷)	1	〃	〃
	2495	着物	1	〃	〃
	2496	〃	1	〃	〃
	2497	〃	1	〃	〃
	2498	綿入	1	〃	〃
	2500	着物 (単)	1	〃	〃
	2501	綿入	1	〃	〃
	2502	〃	1	〃	〃

分類番号	調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
A—A	2504	着物 (拾)	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫
	2505	〃	1	〃	〃
	2506	〃	1	〃	〃
	2508	〃	1	〃	〃
	2509	〃	1	〃	〃
	2512	〃	1	〃	〃
	2517	〃	1	〃	〃
	2528	〃 (拾)	1	〃	〃
	2530	綿入バンテン	1	〃	〃
	2532	綿入	1	〃	〃
	2535	綿入裏地	1	〃	〃
	2537	綿入バンテン裏地	1	〃	〃
	2536	綿入表地	1	〃	〃
	2564	帯	1	〃	〃
	2435	〃	1	〃	〃
	2498	袋帯	1	〃	〃
	2475	下着	1	〃	〃
	2476	モンペ	1	〃	〃
	2507	コート	1	〃	〃
	2527	〃	1	〃	〃
	2529	〃	1	〃	〃
	2443	シヨール	1	〃	〃
	2444	〃	1	〃	〃
(B) 食事					
B—B	2624	水瓶	1	城陽市寺田北東西	田畑 寛
B—D	2625	餅搗臼	1	〃	〃
	2627	餅搗杵	1	〃	〃
B—G	2623	茶壺	1	〃	〃
B—I	2556	飯櫃	1	大塔村篠原	高橋 イワ
	2557	〃	1	〃	〃
	2558	〃	1	〃	〃
	2559	〃	1	〃	〃
(C) 住居					
C—D	2629	箱火鉢	1	大和高田市三倉堂	〃
	2626	提燈箱	1	城陽市寺田北東西	田畑 寛
	2560	タンス	1	大塔村篠原	高橋 イワ
	2635	ツヅラ	1	高取町清水谷	木田 伊作
	2631	ガムシロ	5	十津川村小原	藤本 正義
	2433	ノレン	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫
C—E	2434	蒲団ガワ	1	〃	〃
	2539	蚊帳	1	〃	〃
■ 生産・生業					
(D) 農耕					
D—A	2543	鍬	1	橿原市大久保町	竹中京太郎
	2544	〃	1	〃	〃
	2541	鋤	1	〃	〃
	2542	〃	1	〃	〃
	2630	ネズミ取り	1	王寺町王寺本町	土谷 清
	2548	カラサオ	1	橿原市大久保町	竹中京太郎
	2540	マンガクドオシ	1	〃	〃
	2545	モミトオシ	1	〃	〃
	2549	〃	1	〃	〃
	2566	アツムシロ	1	田原本町伊与戸	増田 芳己
	2562	カマス	1	〃	〃
	2641	〃	1	広陵町沢	辰己 清一

分類番号	調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
D-A	2634	榎スクイ	1	高取町清水谷	木田 長伊
(E) 山 樵					
E-C	2567	マエビキノコギリ	1	奈良市中清水町	望月恵太郎
	2568	〃	1	〃	〃
	2569	〃	1	〃	〃
	2570	〃	1	〃	〃
	2571	〃	1	〃	〃
	2572	〃	1	〃	〃
	2573	マエビキノコ	1	〃	〃
	2574	〃	1	〃	〃
	2575	〃	1	〃	〃
	2576	〃	2	〃	〃
	2577	〃	1	〃	〃
	2610	ノコギリ	1	〃	〃
	2611	〃	1	〃	〃
	2612	〃	1	〃	〃
	2613	〃	1	〃	〃
	2614	〃	1	〃	〃
	2615	〃	1	〃	〃
	2616	改良ノコギリ	1	〃	〃
	2617	ガンガリ	1	〃	〃
(J) 染 織					
J-B	2546	ワタクリ	1	橿原市大久保町	竹中京太郎
J-C	2404	木綿布(紺)	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫
	2405	〃(紺)	1	〃	〃
	2406	〃(紺)	1	〃	〃
	2407	〃	1	〃	〃
	2408	〃(紺)	1	〃	〃
	2409	〃(紺)	1	〃	〃
	2410	〃	1	〃	〃
	2411	〃(紺)	1	〃	〃
	2412	〃(紺)	1	〃	〃
	2413	〃(黒)	1	〃	〃
	2414	〃(黒)	1	〃	〃
	2415	〃(紺)	1	〃	〃
	2416	〃(紺)	1	〃	〃
	2417	〃(縞柄)	1	〃	〃
	2418	〃(紺)	1	〃	〃
	2419	〃(紺)	1	〃	〃
	2420	〃(紺)	1	〃	〃
	2421	〃(紺)	1	〃	〃
	2422	〃(紺)	1	〃	〃
	2423	〃(縞柄)	1	〃	〃
	2425	〃(紺)	1	〃	〃
	2426	〃(紺)	1	〃	〃
	2427	〃(紺)	1	〃	〃
	2428	〃(紺)	1	〃	〃
	2429	〃(紺)	1	〃	〃
	2430	〃	1	〃	〃
	2431	〃	1	〃	〃
	2432	〃(格子縞)	1	〃	〃
	2436	〃(花柄)	1	〃	〃
	2437	〃(紺)	1	〃	〃
	2438	麻布(紺)	1	〃	〃
	2439	木綿布(白)	1	〃	〃

1292  
ナ

分類番号	調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
J-C	2440	木綿布(白)	1	奈良市北棒尾町	福井 久夫
	2441	〃 (白)	1	〃	〃
	2442	〃 (白)	1	〃	〃
	2445	布地(人絹)	1	〃	〃
	2446	木綿布(菊柄)	1	〃	〃
	2447	〃 (紺)	1	〃	〃
	2448	〃 (紺)	1	〃	〃
	2449	〃	1	〃	〃
	2450	〃 (紺)	1	〃	〃
	2451	〃 (菊唐草)	1	〃	〃
	2452	〃 (紺)	1	〃	〃
	2453	〃 (格子柄)	1	〃	〃
	2454	〃 (紺)	1	〃	〃
	2455	〃 (格子柄)	1	〃	〃
	2456	〃	1	〃	〃
	2457	〃 (格子柄)	1	〃	〃
	2458	〃 (紺)	1	〃	〃
	2510	〃 (グリーン)	1	〃	〃
	2511	〃 (グリーン)	1	〃	〃
	2513	〃 (縦縞)	1	〃	〃
	2514	〃	1	〃	〃
	2515	〃	1	〃	〃
	2516	〃	1	〃	〃
	2519	〃	1	〃	〃
	2520	〃	1	〃	〃
	2521	〃 (紺)	1	〃	〃
	2522	〃 (縞柄)	1	〃	〃
	2523	〃 (縞柄)	1	〃	〃
	2524	〃 (縞柄)	1	〃	〃
	2525	〃 (紺)	1	〃	〃
	2531	毛織物布	1	〃	〃
	2534	木綿布(縞柄)	1	〃	〃
(K) 手工・製造					
K-B	2547	コモアミ	1	橿原市大久保町	竹中京太郎
	2550	ムシロバタ	1	〃	〃
	2561	細 縄	1	田原本町伊与戸	増田 芳己
	2642	ムシロバタ	1	広陵町沢	川端 ナカ
(L) 諸 職					
L-B	2578	ヤキバシ	1	奈良市中清水町	望月恵太郎
	2579	〃	1	〃	〃
	2580	〃	1	〃	〃
	2581	〃	1	〃	〃
	2582	〃	1	〃	〃
	2583	〃	1	〃	〃
	2584	〃	1	〃	〃
	2585	〃	1	〃	〃
	2586	〃	1	〃	〃
	2587	〃	1	〃	〃
	2588	〃	1	〃	〃
	2589	〃	1	〃	〃
	2590	トモバシ	1	〃	〃
	2591	〃	1	〃	〃
	2592	〃	1	〃	〃
	2593	〃	1	〃	〃
	2594	〃	1	〃	〃

分類番号	調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
L-B	2595	トモバシ	1	奈良市中清水町	望月恵太郎
	2596	ク	1	ク	ク
	2597	ク	1	ク	ク
	2598	ク	1	ク	ク
	2599	ク	1	ク	ク
	2600	ク	1	ク	ク
	2601	ク	1	ク	ク
	2602	ク	1	ク	ク
	2603	ク	1	ク	ク
	2604	ヤキバシの先	1	ク	ク
	2605	ヤキバシ	1	ク	ク
	2606	スキガンナの歯	1	ク	ク
	2607	ク	1	ク	ク
	2608	スキガンナ	1	ク	ク
	2609	火掻き棒	1	ク	ク
	2618	歯振槌	1	平群町櫛原	小東庄五郎
	2619	ク	1	ク	ク
	2620	目立てのヤスリ	1	ク	ク
	2621	ク	1	ク	ク
	2622	ク	1	ク	ク
<b>■ 交通・運輸・通信</b>					
M-B	2551	オーコ	1	橿原市大久保町	竹中京太郎
	2628	タマカゴ	1	城陽市寺田北東西	田畑 寛
	2563	フゴ	1	田原本町伊与戸	増田 芳己
	2564	コフゴ	1	ク	ク
	2565	ウスムシロ	1	ク	ク
	2636	フゴ(ダイゴフゴ)	1	橿原市醍醐町	川合 寿文
	2637	フゴ(コシキツカフゴ)	1	平群町越木塚	巳波 秀一
	2638	イモフゴ	4	平群町椿井	吐田 藤雄
	2639	イズミフゴ	1	ク	ク
	2640	フゴ	3	広陵町沢	辰巳 清一
	2488	袋モノ(手提袋)	1	奈良市椿尾町	福井 久夫
<b>■ 交易</b>					
N-C	2633	サオバカリ	1	奈良市法蓮北町	中川 清
<b>■ 社会生活</b>					
O-F	2552	重箱	1	大塔村篠原	高橋 イワ
	2553	ク	1	ク	ク
	2554	ク	1	ク	ク
	2555	ク	1	ク	ク
<b>■ 信仰</b>					
P-G	2471	被衣	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫
<b>■ 民俗知識</b>					
Q-A	2632	地囃	1	桜井市外山	宮谷 理
<b>■ 年中行事</b>					
T-D	2538	毛氈	1	奈良市北椿尾町	福井 久夫

# 図書寄贈者目録

(昭和55年11月から  
昭和58年12月まで)

昭和55年11月から昭和58年12月までに、館だより・年報・報告書・紀要・図録・単行本等を御寄贈いただいた寄贈者（機関）名を記し、感謝の意を表します（敬称略アイウエオ順）。

## 1. 博物館・研究機関

相川郷土博物館 会津民俗館 アイヌ無形文化伝承保存会 青森県立郷土館 秋田県民俗学研究会 秋田県立博物館 熱田神宮宝物館 飯塚市歴史資料館 池田市立歴史民俗資料館 石川県立郷土資料館 伊勢民俗学会 伊丹市立博物館 市立市川博物館 市立市川歴史博物館 茨城県歴史館 磐城民俗研究会 岩手県立農業博物館 岩手県立博物館 上田市立博物館 上田民俗研究会 浮世絵太田記念美術館 海の博物館 浦和市立郷土博物館 江戸川区郷土資料室 愛媛県立博物館 近江地方史研究会 近江文化会 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大阪経大学会 大阪城天守閣 大阪市立自然史博物館 大阪市立博物館 大阪市立美術館 大阪人権歴史資料館 大阪文化財センター 大阪郵政考古学会 大谷女子大学資料館 大谷大学民俗学研究会 岡山県立博物館 岡山市立オリエント美術館 岡山民俗学会 小川原湖民俗博物館 沖縄県立博物館 沖縄民俗研究会 小浜城跡発掘調査団 尾鷲市立中央公民館郷土室 加賀市歴史民俗資料館 香川県文化会館 家具の博物館 加古川流域滝野歴史民俗資料館 可児郷土歴史館 鹿児島県歴史資料センター黎明館 鹿児島民具学会 鹿児島民俗学会 檜原市千塚資料館 春日顕彰会 春日大社宝物殿 神奈川県立博物館 加能民俗の会 蒲郡市郷土資料館 元興寺文化財研究所 韓国文化院 関西大学民俗学研究会 紀伊風土記の丘 北上市立博物館 北九州市立歴史博物館 木下美術館 岐阜県博物館 君津市立久留里城址資料館 京都国立近代美術館 京都国立博物館 京都精華大学針畑生活資料研究会 京都服飾文化研究財団 京都府立総合資料館 京都府立丹後郷土資料館 京都府立山城郷土資料館 近畿文化会 近畿民具学会 近畿民俗学会 釧路市立郷土資料館 熊本市立熊本博

物館 倉吉博物館 群馬県立歴史博物館 群馬歴史民俗研究会 憲政記念館 皇学館大学史料編纂所 工芸学会 交通科学館 行動と文化研究会 神戸市立教育研究所 神戸市立博物館 郡山城址柳沢文庫保存会 国学院大学考古学資料館 国学院大学民俗学研究会 国際交流基金 国立史料館 国立民族学博物館 国立歴史民俗博物館 小平市遺跡調査会 古典と民俗学の会 小松市立博物館 小山市立博物館 埼玉県立さきたま資料館 埼玉県立博物館 埼玉県立民俗文化センター 埼玉県立歴史資料館 堺市博物館 堺民俗会 佐賀県立九州陶磁文化館 佐賀県立博物館 相模民俗学会 桜井史談会 佐渡国小木民俗博物館 狭山町立郷土資料館 山陰民俗学会 滋賀県立近江風土記の丘資料館 滋賀県立長浜文化芸術会館 滋賀県立琵琶湖文化館 滋賀民俗学会 四国家家博物館 静岡市立登呂博物館 史正会 篠山町立篠山歴史美術館 しまうた文化研究会 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館 志摩民俗資料館 斜里町立知床博物館 上越市立総合博物館 庄内民俗学会 湘南砂丘遺跡研究会 白河市歴史民俗資料館 神宮徴古館農業館 人類文化研究会 人類文化研究所 須賀川市立博物館 西郊民俗談話会 成城大学民俗学研究所 西武美術館 世田谷区郷土資料館 瀬戸内海歴史民俗資料館 仙台市博物館 仙台市歴史民俗資料館 惣谷狂言保存会 総本山長谷寺文化財等保存調査委員会 太鼓資料館準備室 大正大学仏教民俗学会 高島町歴史民俗資料館 高山市郷土館 館林市立資料館 たばこと塩の博物館 置賜民俗学会 置賜民俗資料館 知多市民俗資料館 秋父民俗研究会 致道博物館 千葉県立安房博物館 千葉県立大利根博物館 千葉県立上総博物館 千葉県立辰総風土記の丘 千葉市郷土館 千葉市立郷土博物館 地名を守る会運営委員会事務局 中四国

民具学会 調布市郷土博物館 津山科学教育博物館 津山市立津山郷土館 帝塚山考古学研究所 帝塚山短期大学日本文化史学会 天理ギャラリー 天理参考館 天理大学学術研究会 東京家政大学生生活資料館 東京大学史料編纂所 東京都庭園美術館 東京農業大学農業資料室 東京農工大学工学部付属繊維博物館 東京農工大学農学部付属農場 東京民芸協会 東北学院大学東北文化研究所 東北大学日本文化研究所 東北歴史資料館 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 東洋大学民俗研究会 徳島県博物館 土佐民俗学会 栃木県立郷土資料館 栃木県立博物館 鳥取県立博物館 富山民俗の会 豊橋市美術博物館 内藤記念くすり博物館 中野文化センター郷土資料室 長野市立博物館 名古屋市博物館 奈良県部落解放研究所 奈良県立橿原考古学研究所 奈良県立橿原考古学研究所付属博物館 奈良県立美術館 奈良国立博物館 奈良国立文化財研究所 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 奈良市史編集室 奈良市小学校教科等研究会 成田山霊光館 南都仏教研究会 新潟県民俗学会 日本海事史学会 日本科学技術振興財団科学技術館 日本建築家協会 日本工芸館 日本口承文藝学会 日本常民文化研究所 日本地名研究所 日本はきもの博物館 日本美術刀剣保存協会 日本民家集落博物館 日本モンキーセンター 沼津市立歴史民俗資料館 寧楽美術館 農村文化研究所 野田市桜台遺跡調査会 野田市本郷遺跡調査団 萩市郷土博物館 白老民族文化伝承保存財団 八王子市郷土資料館 花園大学民俗研究会 羽曳野市埋文調査センター 浜松市博物館 東大阪市立郷土博物館 東大阪市文化財協会 美術文化史研究会 氷見市立博物館 日向民俗学会 兵庫県立近代美術館 兵庫県立博物館設立準備室 兵庫県立歴史博物館 平塚市史編さん室 平塚市博物館 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 広島民俗学会 ひろしま・みんぞくの会 枚方市文化財研究調査会 福井県陶芸館 福井県立博物館建設準備室 福井県立若狭歴史民俗資料館 福岡市立歴史資料館 福岡県民俗学会 福島県立博物館 基本構想検討委員会

藤沢市文書館 富士市立博物館 富士美術館 府中市立郷土館 仏教大学学会 仏教大学歴史研究所 仏教民俗学会 福生市郷土資料室 船の科学館 プリヂェストン美術館 文化庁文化財保護部 平群史蹟を守る会 別府大学付属博物館 鳳来寺山自然科学博物館 ポーラ伝統文化振興財団 穂高町郷土資料館 北海道開拓記念館 町田市立博物館 まつり同好会 三重県郷土資料刊行会 三重県立博物館 御影史学会 御影民俗学研究会 三国町郷土資料館 三島市郷土館 美濃民俗文化の会 宮崎県総合博物館 宮島町立宮島歴史民俗資料館 宮本馨太郎記念財団 民具製作技術保存会 民俗と歴史の会 武蔵野美術大学生活文化研究会 明治大学商品陳列館 明治村 矢田部落史研究会 大和文華館 山形大学付属博物館 山形県立博物館 山形県立博物館教育資料館 山口県立山口博物館 横浜市三殿台考古館 リトルワールド 竜門文化保存会 両津市郷土博物館 陵南の森歴史資料室 歴史考古学研究会 輪島市立民俗資料館 早稲田大学会津博士記念東洋美術陳列室 早稲田大学民俗と歴史の会

## 2. 教育委員会

相川町教育委員会 飯塚市教育委員会 岩手県教育委員会 江戸川区教育委員会 大田区教育委員会 大塔村教育委員会 大野城市教育委員会 大宮市教育委員会 岡山県長船町教育委員会 春日井市教育委員会 蒲郡市教育委員会 河内長野市教育委員会 岐阜市教育委員会 京都府教育委員会 神戸市教育委員会 埼玉県教育委員会 佐賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 吹田市教育委員会 世田谷区教育委員会 大東市教育委員会 当麻町教育委員会 千葉県教育庁 天理市教育委員会 東郷町教育委員会 十津川村教育委員会 富山市教育委員会 奈良市教育委員会 新潟県教育委員会 西宮市教育委員会 羽曳野市教育委員会 東大阪市教育委員会 枚方市教育委員会 福岡市教育委員会 福生市教育委員会 平群町教育委員会 松原市教育委員会 三国町教育委員会 和歌山県教育委員会

## 3. 大学・図書館

お茶の水女子大学文教育学部教育学研究室 関西大学考古学等資料室 関西大学博物館学

課程 国学院大学博物館学研究室 駒沢大学  
 考古学研究室 桜井女子短期大学冬木記念図  
 書館 聖母女学院短期大学生活科学第一研究  
 室 多摩美術大学 帝塚山学院大学図書館  
 帝塚山大学考古学研究室 帝塚山大学考古学  
 実習室 帝塚山大学図書館 帝塚山短期大学  
 図書館 天理大学付属図書館 東京農業大学  
 図書館 同志社大学博物館学芸員課程 奈良  
 教育大学付属図書館 奈良芸術短期大学図書  
 館 奈良県立医科大学付属図書館 奈良県立  
 橿原図書館 奈良県立短期大学付属図書館  
 奈良工業高等専門学校 奈良佐保女学院短期  
 大学 奈良女子大学付属図書館 奈良市立帯  
 解小学校 奈良大学図書館 奈良大学文学部  
 奈良大学考古学研究室 奈良文化女子短期大  
 学付属図書館 広島女子大学 仏教大学図書  
 館 松枝小学校 武蔵大学人文学部 明治大  
 学学芸員養成課程 立教大学学校・社会教育  
 講座 龍谷大学文学部

#### 4. 個人

浅野清 池田源太 池田末則 泉房子 浦西  
 勉 大島暁雄 奥野義雄 岸田定雄 木村一  
 倉窪孝 倉田貴子 佐藤和子 佐藤利夫 澤  
 田寿々太郎 芝正夫 清水達夫 下野敏見  
 宗田一 田中義広 玉崎巳藏 坪井みゑ子

戸川安章 永山祐三 西岡常一 NOLD  
 EGENTER 林宏 平沢一雄 平野馨 松  
 井茂 松崎憲三 宮崎清 山下英世 吉岡観  
 一 米沢為市郎 渡辺誠

#### 5. その他

暁教育図書 秋田県企画調整部企画調整課  
 茨城県生活福祉部総合県民室 エッソ・スタ  
 ンダード石油株式会社広報部 大神神社 オ  
 ーム社 小黒企画 学習研究社 神奈川県県  
 民部文化室 河合町 京都市文化観光局文化  
 財保存課 近畿日本鉄道 公益社 講談社  
 国際報道社 桜井市役所 三広企画株式会社  
 小学館 新人物往来社 染織と生活社 伊達  
 市役所 ティ・ビー・エス映画社 天川村役  
 場 東京法令出版株式会社 奈良県 奈良県  
 商工観光館 奈良市八島町自治会 日本リク  
 ルートセンター はあとびあ出版 日立 藤  
 沢市役所 府中市環境部 名著出版 大和郡  
 山市役所 大和郡山市立少年自然の家 大和  
 高田市

### ★★★★ おしらせ ★★★★★

#### ●民俗博物館の行事予定

テーマ展「大和のはたおり」  
 昭和59年4月8日～8月25日  
 ※テーマ展々替えの期間中（3月29日～4月7日）  
 テーマ展々室は、閉室しますので、ご了承下さい。  
 民俗カルチャー講座（民俗コースⅠ）（民具と習俗）

定員60名

昭和59年6月23日～7月7日

（いずれも土曜日、午後2時より）

％ 住いと家具・調度

％ 台所の民具と習俗

ㄆ 住い、暗れと藝

#### ☆予告☆

民俗カルチャー講座の民俗コースⅡおよび民家コ  
 ースは下記の期間に開催予定です。

●民俗コースⅡ 10月13日～10月27日

（いずれも土曜日午後2時より）

●民家コース s60年3月10日～3月17日

（いずれも日曜日）

※同講座についての詳細は、当館へお問い合わせ下さ  
 さい。

体験学習講座「特集・はたおり教室Ⅰ～Ⅲ」

定員予定12名～24名

昭和59年5月19日(土)～20日(日)（第1回目）

昭和59年6月16日(土)～17日(日)（第2回目）

昭和59年7月21日(土)～22日(日)（第3回目）

※同講座は、1～3まで連続で参加できる人で県内在  
 住者を対象とし、実際の「はたおり」で織っていく  
 までの工程をマスターしてもらうように企画しまし  
 た。詳しくは当館へお問い合わせ下さい。

《表紙解説》 山添村春日の山の神まつりは正月7  
 日にも山の神へ供物や賽物を供えて祭り事を行なう。  
 一般に山の神まつりは11月7日、1月7日、6月  
 7日などに行なわれるが、祭りごとの中心になる日  
 が1月7日や11月7日である場合が少なくない。

#### ■編集後記■

新しい年を迎えて、雪の日の多い年になった。  
 大雪で交通麻痺をおこした日本列島の早春。暖か  
 い春を待つ草木が積雪の下でいる。

もう東大寺のお水取り（修二会）もすみ、暖か  
 い日差しが時折りゆっくりと降りてくるというの  
 に。その温りもつかのま、陽がかけると静かにそ  
 して冷ややかに寒気が襲ってくる三月半ば。

公園の樹木も寒さに震えながら昼間の温りを開  
 にもとめる。冷えきった夜と暖かい日差しの昼の  
 隙間から春一番を望みながら、大きな変貌を遂げ  
 る三月の顔に震える日々。

これが三月のベルソナであるなら、人は凝視し  
 て四月の進路を予知し、それに対処する術を考え  
 ねばならない。それも、心機一転して——。(✕)